

特50

343

和字選擇集

三

○未法萬年の後餘行もゆるぎを滅し特

念佛は留るれ文。口



No. 5991



無量壽經の下巻にゆるぎ當來の世に經道

をんぶつに慈悲長懸はきてひこま

此經をとりめて止任すること百歳はしくぞ

と衆生あはれてこの經をあへんもの意の行

願り志あふひくみお得度よへると。口

私に問ていらく經りたく特留此經止任百

餘れ諸行に於て準ましてきつるべし。故に淨土の經に於て
善導和尚の往生禮讚に於て釋しやくして
いふ。百年に三寶滅せん。其の經に於て
百年たつらん。其の經に於て念ねんふべし。其の經に於て
いふ。彼にまじりてを得べし。其の經に於て
釋しやくして。略して四の意あり。一は聖道淨土
の二教住滅の前後。二は十方西方の二教住
滅の前後。三は都率西方の二教住滅の

釋

釋

前後。四は念佛諸行の二行住滅の前後
なり。一は聖道淨土の二教住滅の前後と
いふ。聖道門の諸經の滅と故に經道滅
盡じんといひ。淨土門の二教住滅の前後と
止住百歳といふ。其の經に於て聖道の機
縁えん淺薄せんぱく。淨土の機縁えん深厚しんこうなり。故に二
十方西方の二教住滅の前後といふ。十方
淨土の往生の諸教の滅と故に經道滅盡

といひ。西方浄土往生のこゝに經ひたりと云ふ。
故よ止住百歳といふ。よといふは、
の浄土機縁淺薄に。西方浄土の機縁深厚な
る。よといふは、三よ準率西方の二教住滅の前後
といふ。よといふは、上生心地等の上生都率の諸教
まの滅す。故よ。經道滅盡といひ。往生西方
れこの經特り留る。故り。止住百歳といふ。
よといふは、一よ準率の近。よといふは、縁

三

三

ありく。極樂の遠。よといふは、縁深きこ
は。四よ念佛諸行の二行住滅の前後をい
い。よ。諸行往生の諸教まの滅とが。よ。よ
經道滅盡といひ。念佛往生のこゝに經特り
留る。故よ止住百歳といふ。當よ知。よ。諸行
往生の機縁。よ。よ。念佛往生の機縁
よ。よ。深き。よ。よ。諸
行往生の縁少く。念佛往生の縁多。よ。よ。

諸行往生の近く未法万年の時より局りの念佛
往生の遠く法滅百歳の代りなりはとて
法問ていふよりよりの慈悲長啓なる
て特におの経をたてて止住しむる
歳たりんといふ著しむる釋尊慈悲なる
て経教はたゞ何の経何の教の
おぼしむるはとて餘経をたゞ
唯一の経なるをたゞしむる

何の経は留じも別して一經なる
とてこの難なるは但し持し
れ経はたゞめたるの深き意ありん
若し善導和尚の意よりいへば經の中に
すてよ弥陀如来の念佛往生の本願成と
きは入る釋迦の慈悲念佛をたゞしむる
りてしてこれ経はたゞめたる餘經の中に
しむるは弥陀如来の念佛往生の本願成

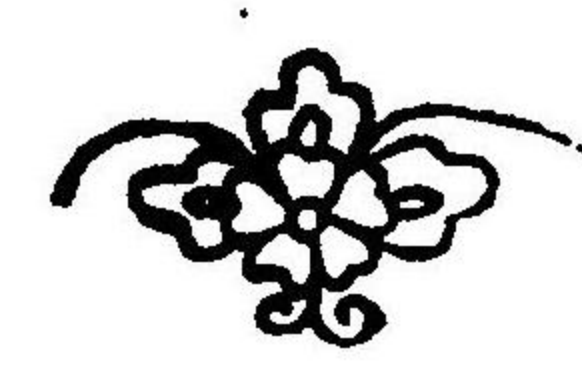
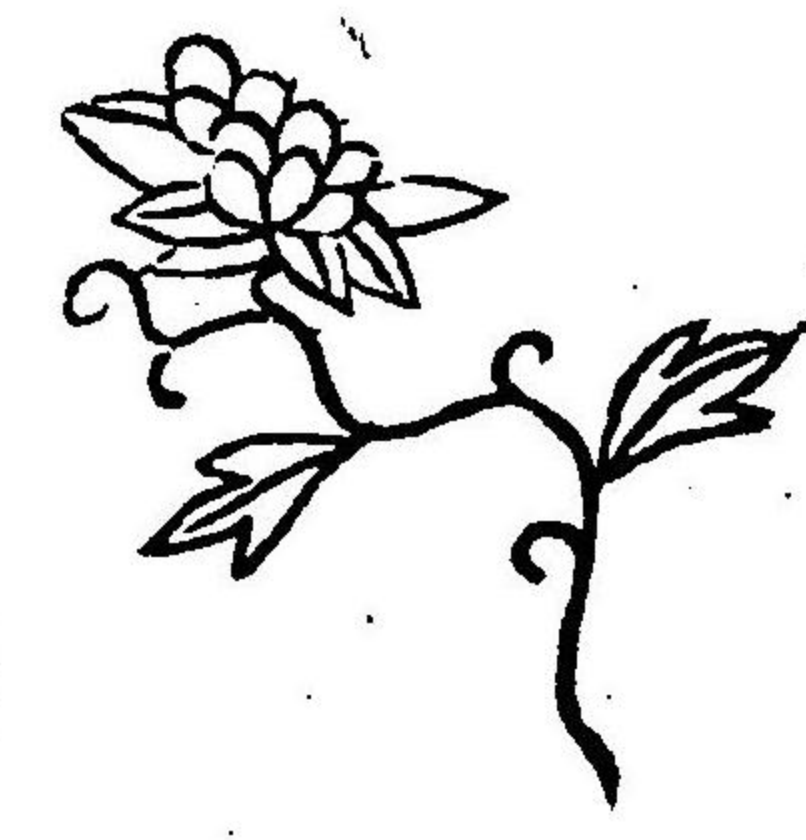
す。故よ釋尊の慈悲。あつてこれをも
りたまはず。おほよそ四十八願。これ本願なり
と。いふ。これに念佛は。して。往生の規。と。は。
故り。善導の釋。いふ。く。私。折。言。多。門。り
して。四十八偏。念佛を標。し。く。とも
親。こ。は。人。く。佛。念。ず。れば。佛。遷。て。念
じた。よ。ふ。專。心。よ。佛。念。想。へ。ば。か。く。け。人
を。知。た。よ。ふ。と。故。よ。知。ぬ。四十八願。中。り。

三

五

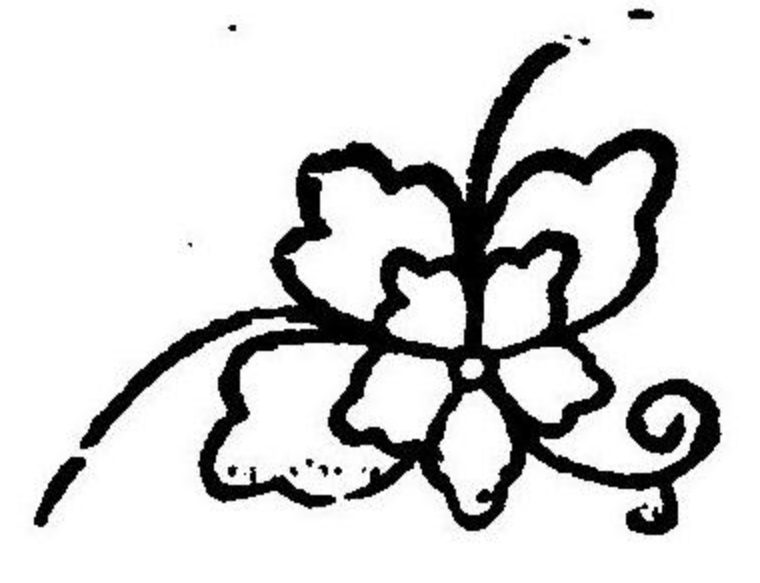
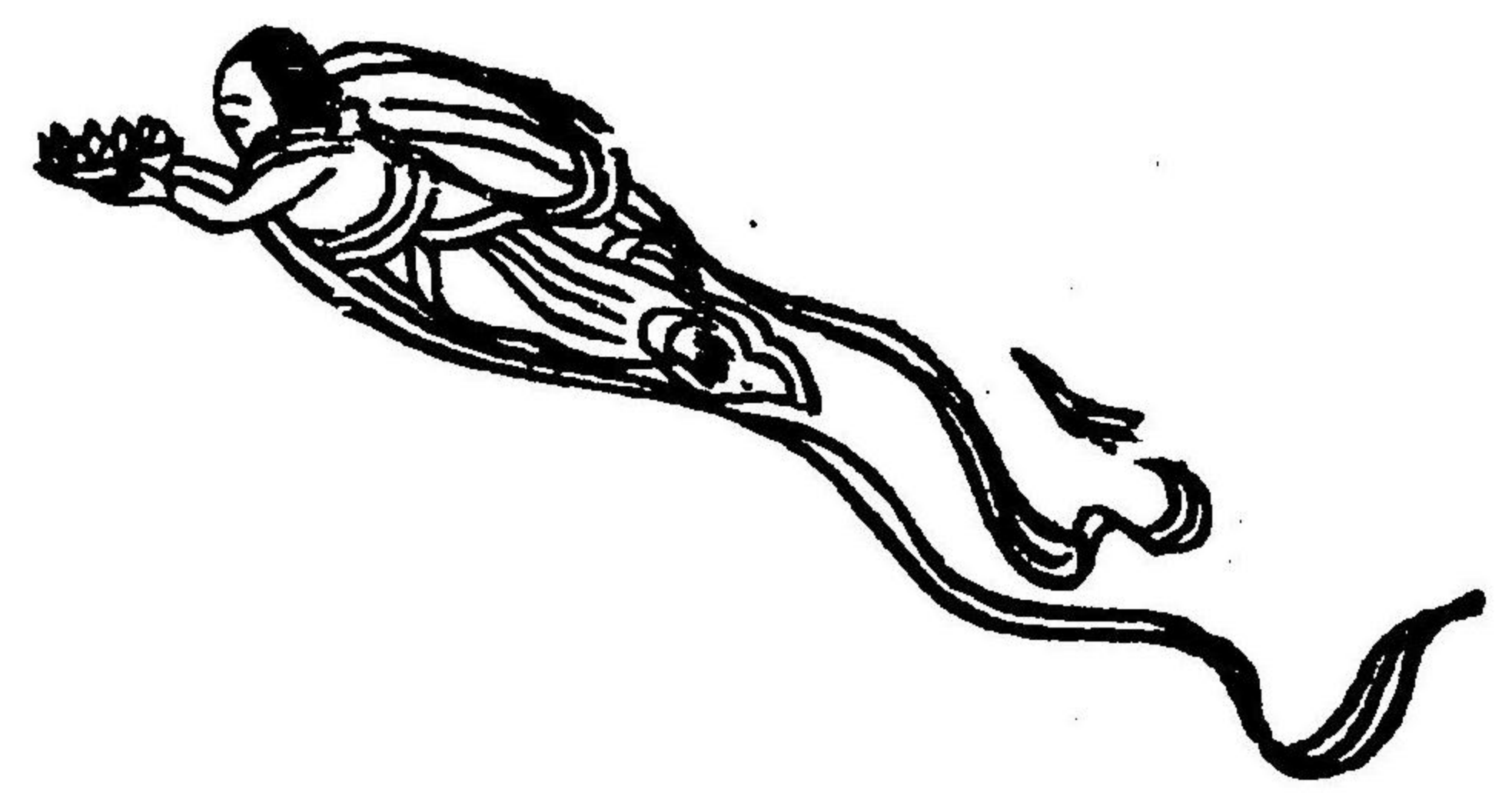
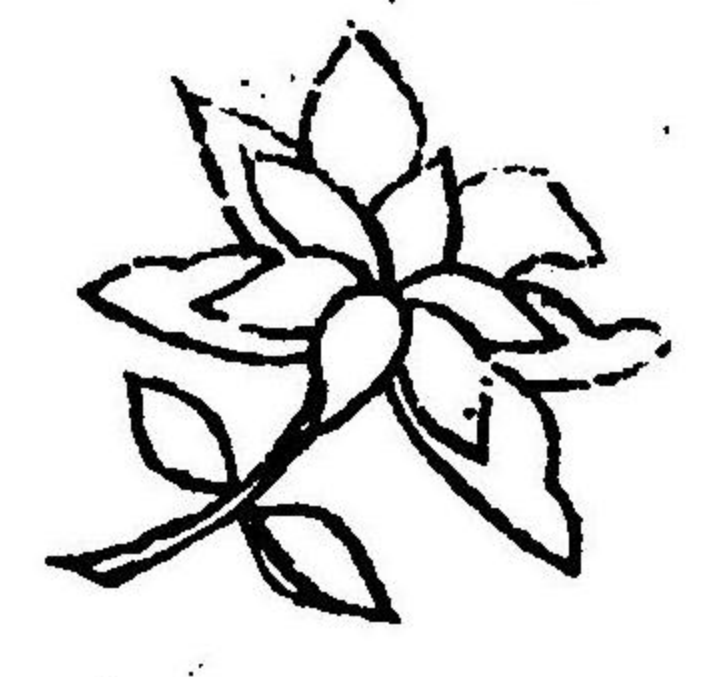
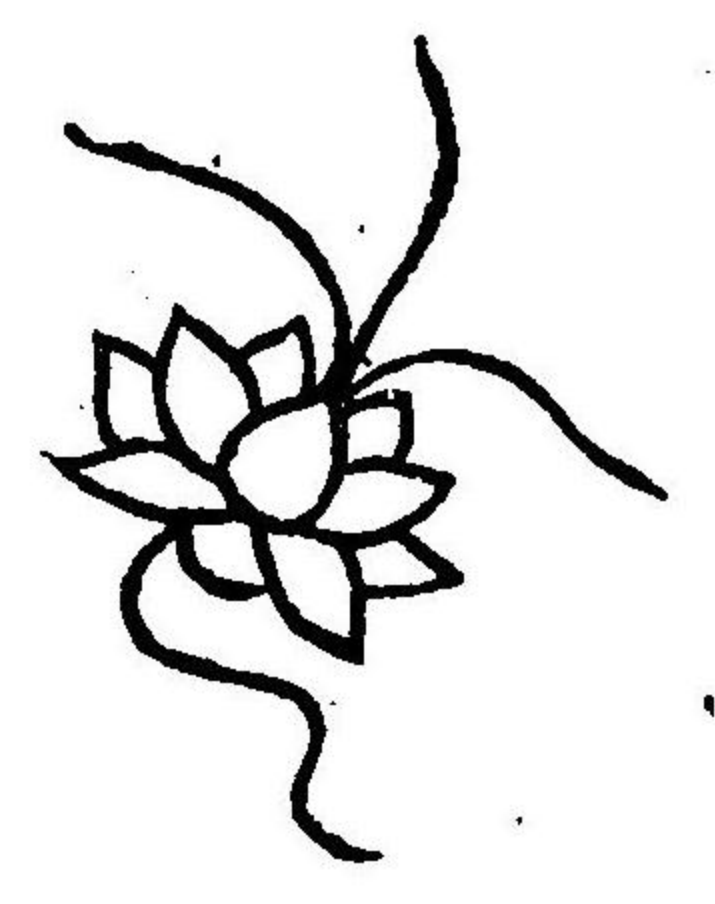
とて。念佛往生の願を。とて。本願の中。乃
ま。と。す。り。た。り。こ。は。も。て。釋。迦。の。慈。悲。特。り
こ。の。經。を。と。て。止。住。と。も。く。百。歳。の。例。せ
は。う。れ。觀。無。量。壽。經。の中。り。定。散。乃。行。は。
付。属。と。は。し。て。お。ほ。い。ら。り。念。佛。の。行。は。
付。属。し。給。ふ。と。い。ふ。こ。れ。す。あ。ら。う。の。ま。ん
佛。願。に。順。ず。る。故。り。念佛。乃。一。行。を。付。属
した。よ。ふ。問。て。い。ふ。く。百。歳。の。間。念。佛。は。留。む

べんごころの理とて像あり。其念佛の行は
 たゞの時機あり。つとむるやん。正
 像末法の機あり。通じやん。答てん。く
 いろを正像末法と通じやん。後をあげ
 て今法すじとの義知る。

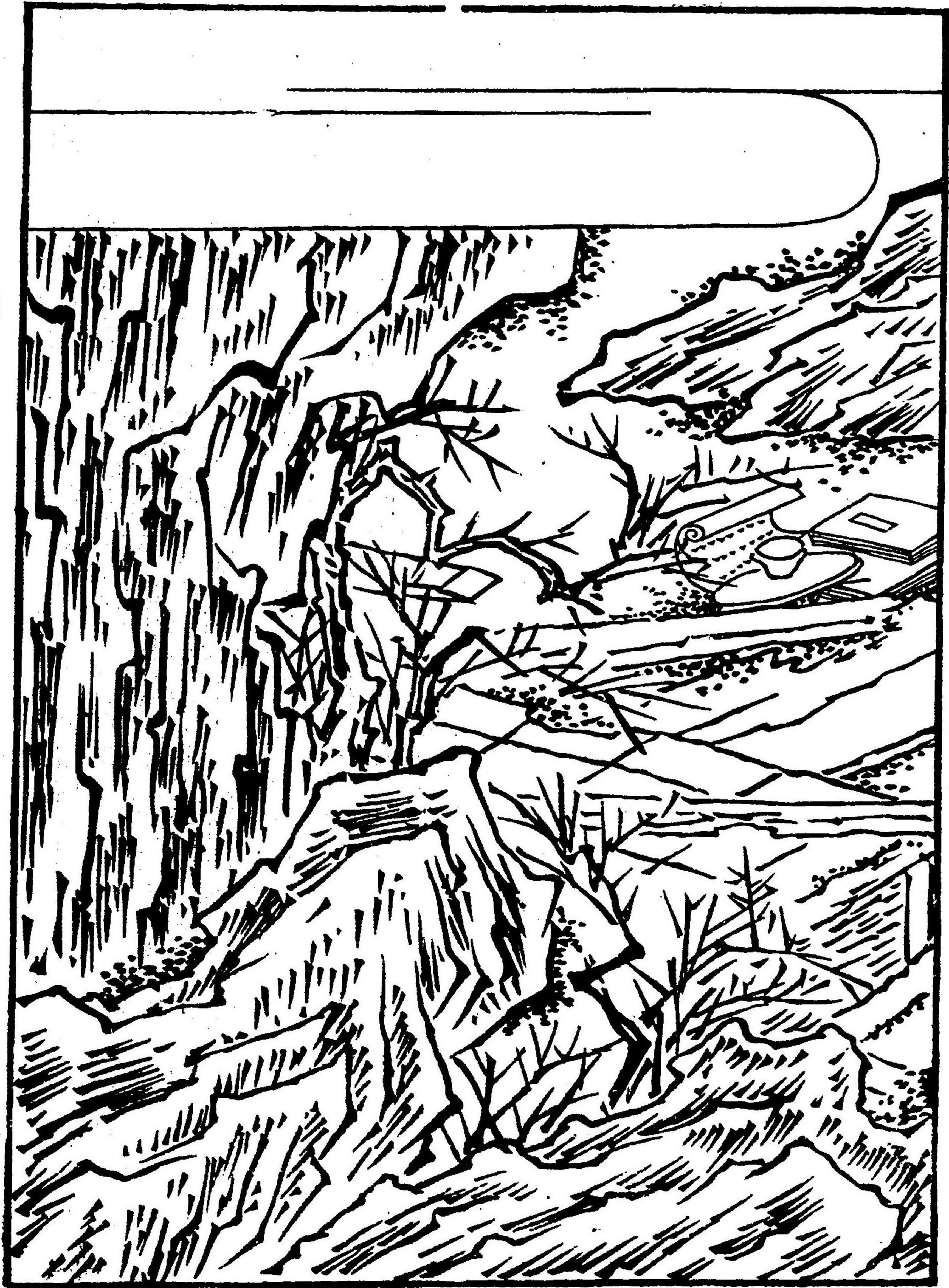


三ノ

三ノ







三十一

八

○ 祇園の光明餘行しきえんのかうめいじゆぎやうのなをへらばげ唯念

佛の行者ぶつのかうぎやう返攝取へんしゆとしなまよ乃支

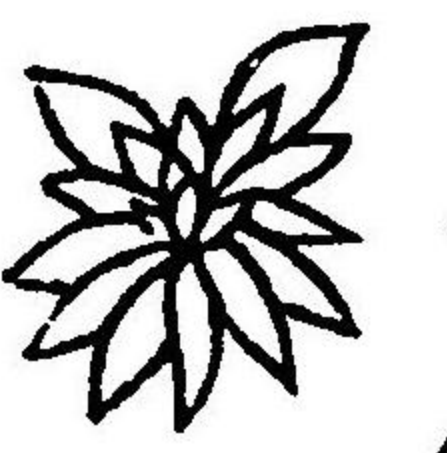
觀無量壽經くわんむりやうじゆぎやうよひく無量壽佛むりやうじゆぶつり八萬四

千せんれ相さうあり一いつくれ相さうよなひのく八萬四千はつまんしよせんの隨

形ぎやう好こうあり一いつくれ好こうよまほひ八萬四千はつまんしよせんの光明くわうめいあり

一いつくれ光明くわうめいありほほく十方じふぱう世界せかいはてしなくして念佛ねんぶつ

れ衆生しゆじやうを攝取しゆとして捨すてたまふ候ときと。



同經どうぎやうれ流りゆうよひく無量壽佛むりやうじゆぶつよる下しも攝取しゆと不

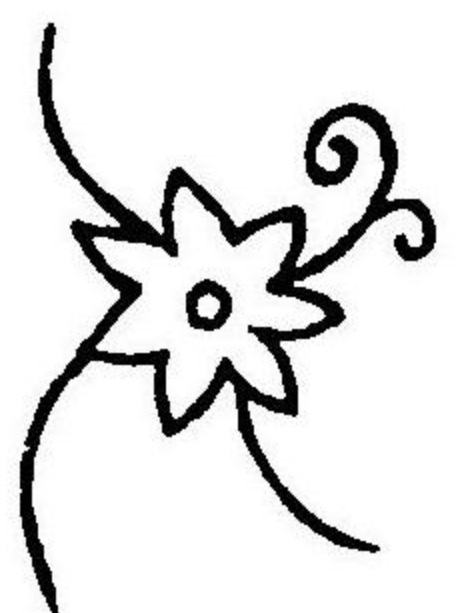
あし捨離^{すてり}せ^ん故^ゆり親縁^{しんえん}となづく。二よ近縁^{きんえん}
故^ゆあし衆生^{しゆじやう}や^らけ^を見^みま^すつ^らん^と願^{ねん}
ど^れん^佛も^らら^念よ^應よ^て目^め前^{まへ}よ^現在^{げんざい}
ま^すま^す。故^ゆり近縁^{きんえん}となづく。三よ増上縁^{じやうじやうえん}
を^あし衆生^{しゆじやう}舞^ま念^{ねん}と^れば^すあ^ら多^た劫^{じやく}乃^の
罪^{つみ}滅^{めつ}除^{じゆ}も^命を^らん^はつ^との^時や^らけ^を
聖^{せい}衆^{しゆ}と^らら^来て^迎接^{げう}し^なま^す。
諸^{しよ}邪^{じや}業^{ごう}繫^{けい}つ^はぬ^まの^たり^故増上縁^{じやうじやうえん}

卷三

十

や^あら^ずく^自餘^{じゆ}れ^衆行^{しゆ}ま^れ善^{ぜん}となづく^と
い^へも^そ一^念佛^{ぶつ}よ^比と^もば^やら^ずく^比校^{けう}り^り
あ^らば^{これ}よ^諸經^{しゆ}の中^{ちゆう}處^{ちよ}り^廣念^{げん}佛^{ぶつ}乃^の
功^{こう}能^{のう}を^讚と^無量^{むりやう}壽^{じゆ}經^{きやう}の^四十^は八^願の中^{ちゆう}に^ます。
唯^{ただ}ま^らる^祇陀^{ぎだ}の^名号^{ごう}を^念じ^てま^すと^も一^後
得^{とく}ま^らる^あら^じ。又^{また}祇陀^{ぎだ}經^{きやう}乃^の中^{ちゆう}に^ます。二日^{にち}
七日^{にち}ま^らる^祇陀^{ぎだ}の^名号^{ごう}を^念じ^てま^すと^も
ま^らる^得ま^らる^十方^{じふ}恒^{じやう}沙^さの^諸佛^{しよ}不^ふ虚^{じよ}を^證誠^{じやう}

きつるよふ。又、此經の定散此文の中に、
一、諸名号念じて、生ずることを得る。一、法標
と。此例よあは、廣念佛三昧をあらう
竟ぬと。〇



觀念法門よいく。又、前のごとく身相等の先
一、あまの縁を十方世界はてしなくたゞさう
阿弥陀佛念じてる衆生のとあらう。此佛の心
先はよにいれんをてしなく攝護してすて

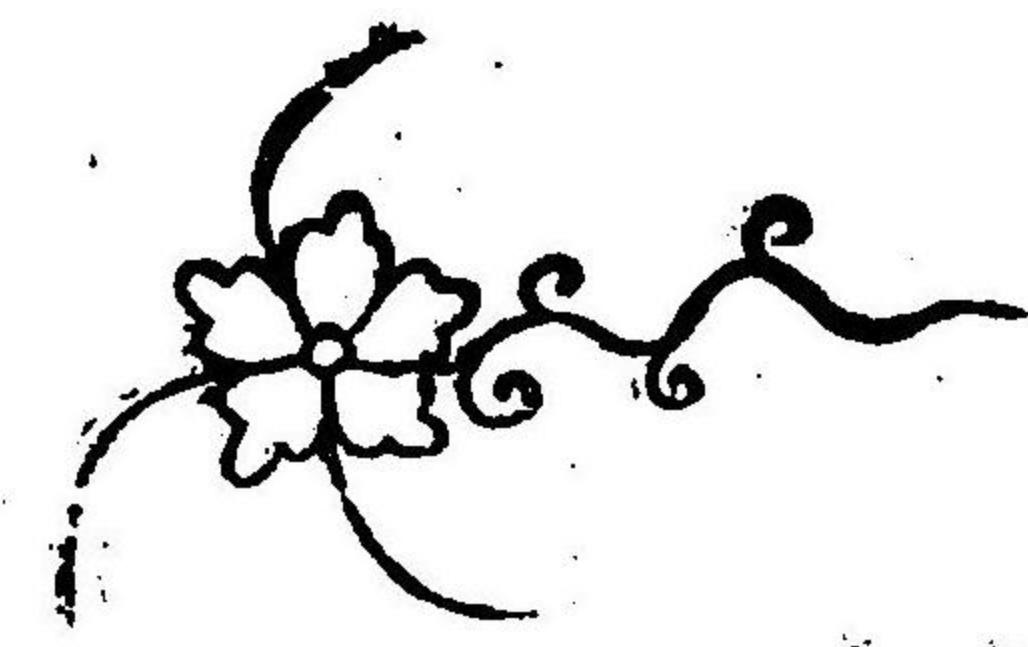
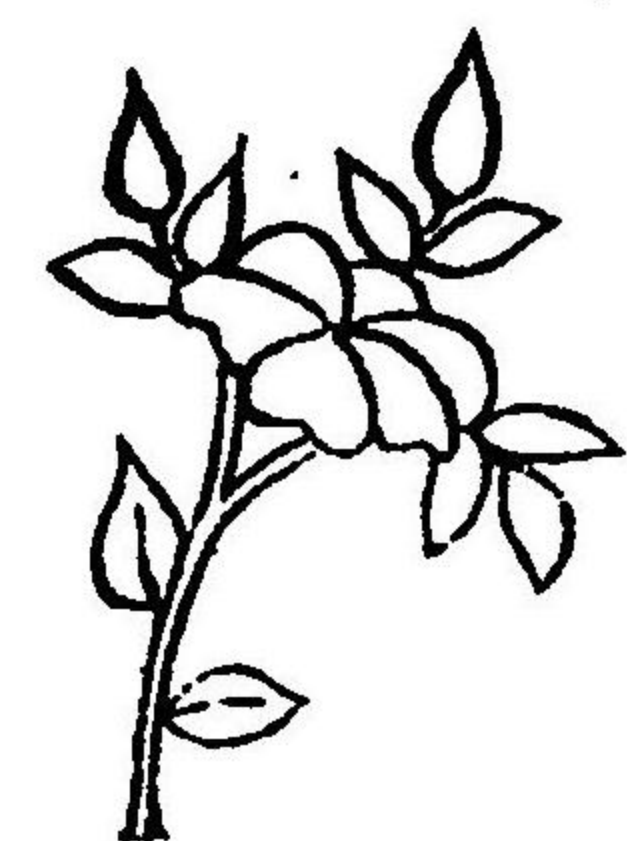
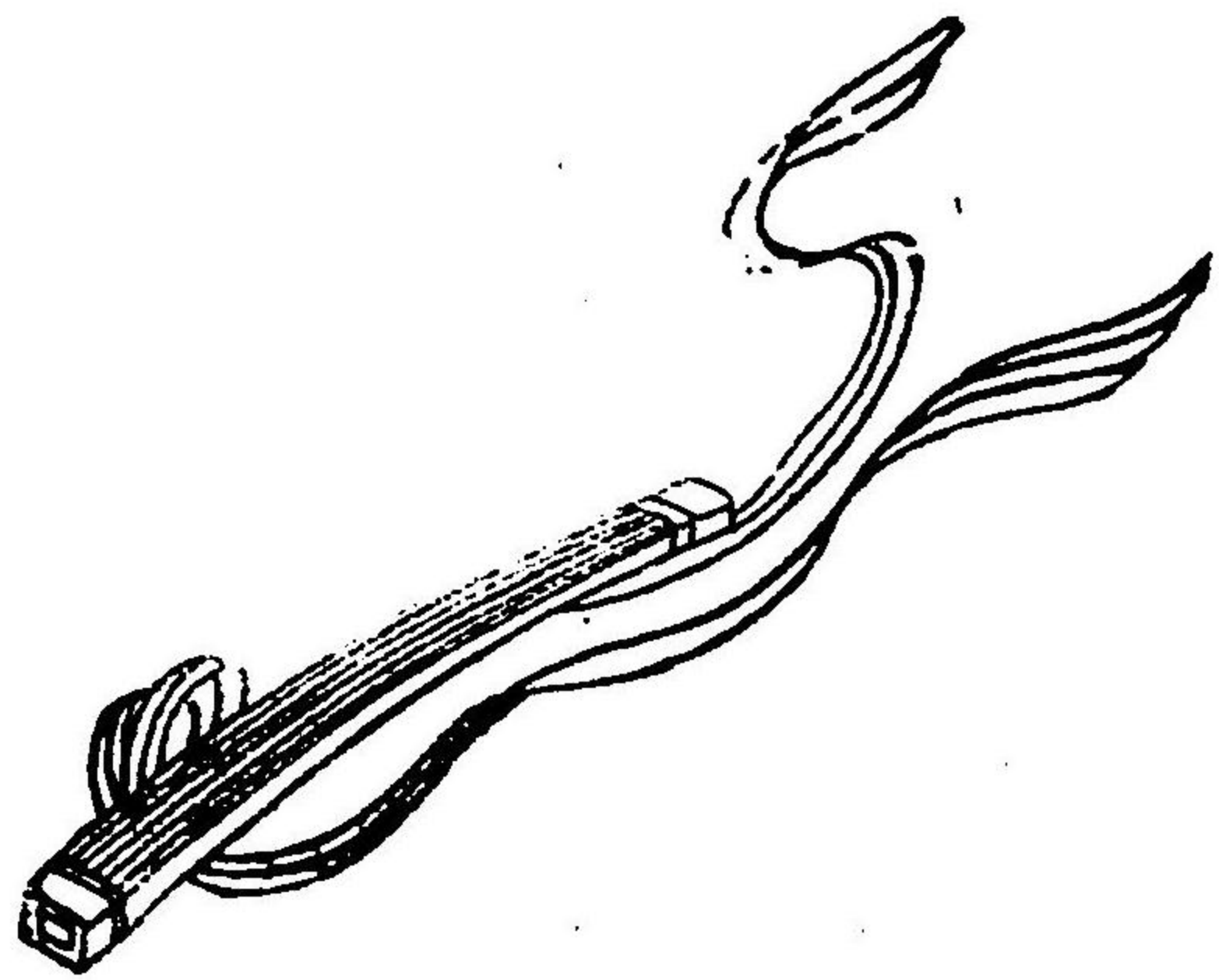
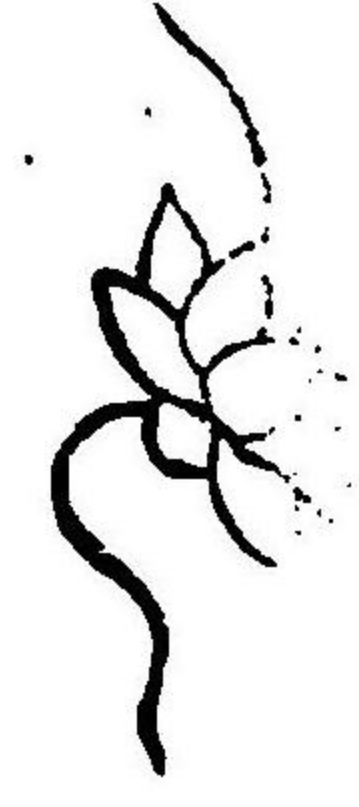
終に惣く餘れ雜業の行者は照攝する
し法論せはと。〇

私よ問ていさく。わづけれ光明を念佛乃
まのいさく。とて。餘行の者はてしなく
はあう。とて。ろあや。答ていさく。解とるに
二義あり。一よ親縁畢れ三義文のよし。
二より本願は義いさく。餘行の本願にあ
は。の。あ。う。と。て。ろ。あ。や。答。て。い。さ。く。解。と。る。に。二。義。あ。り。一。よ。親。縁。畢。れ。三。義。文。の。よし。二。より。本。願。は。義。い。さ。く。餘。行。の。本。願。にあ。は。の。あ。う。と。て。ろ。あ。や。答。て。い。さ。く。解。と。る。に。

此本願なり。のうぶゆへに。あまきと照攝と故
小善導和尚の六時禮讚より。亦隨れ
身色みんしき金山きんざんなり。相好の光明十方を照と。
も。念佛乃そのれとありて。光攝をうふじ。
ゆさにはるる。本願最強ほんがんじやくなり。上又前
引の文れ中に。自餘乃衆善しゆじゆに。此善とあり
をこいへども。き。念佛よ比とれ。よこ
比校よあり。ばといぬ。意いのいとく。此浄

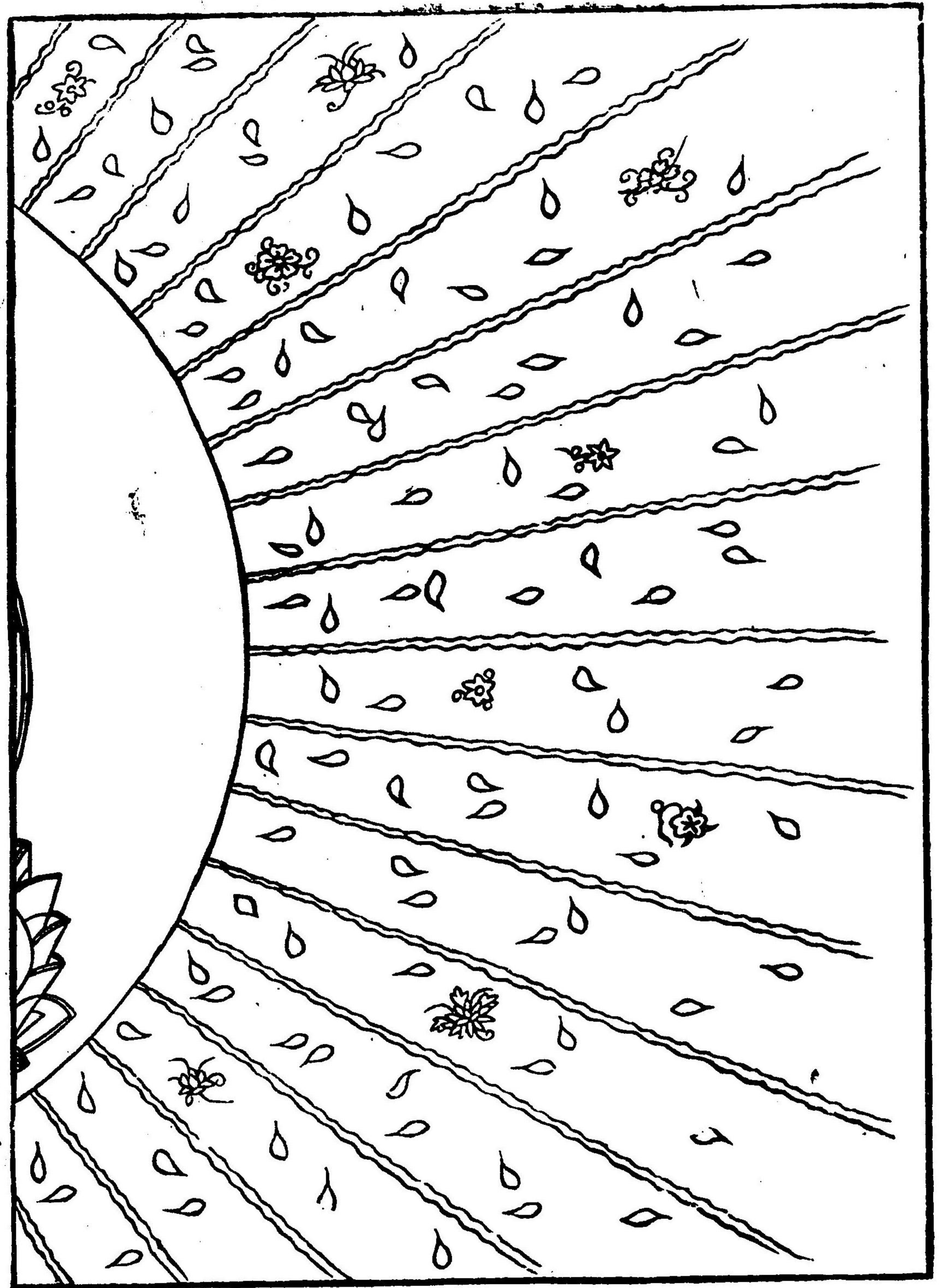
金

門の諸行よ約して。ち。を比論する
所あり。念佛に。此すぞり。二百一十億れ
中。選取せんしゆと。所の妙行あり。諸行と。こき
すてに。二百一十億の中に。選捨せんしやす。所の
廉行あり。故り。ゆ。比校よあり。ゆと
いぬ。又念佛に。こき本願れ行。諸行は本願
小あり。ば。の。家。ゆ。り。ち。を。比。校。り
あり。ゆ。と。い。ぬ。ゆ。ち。○

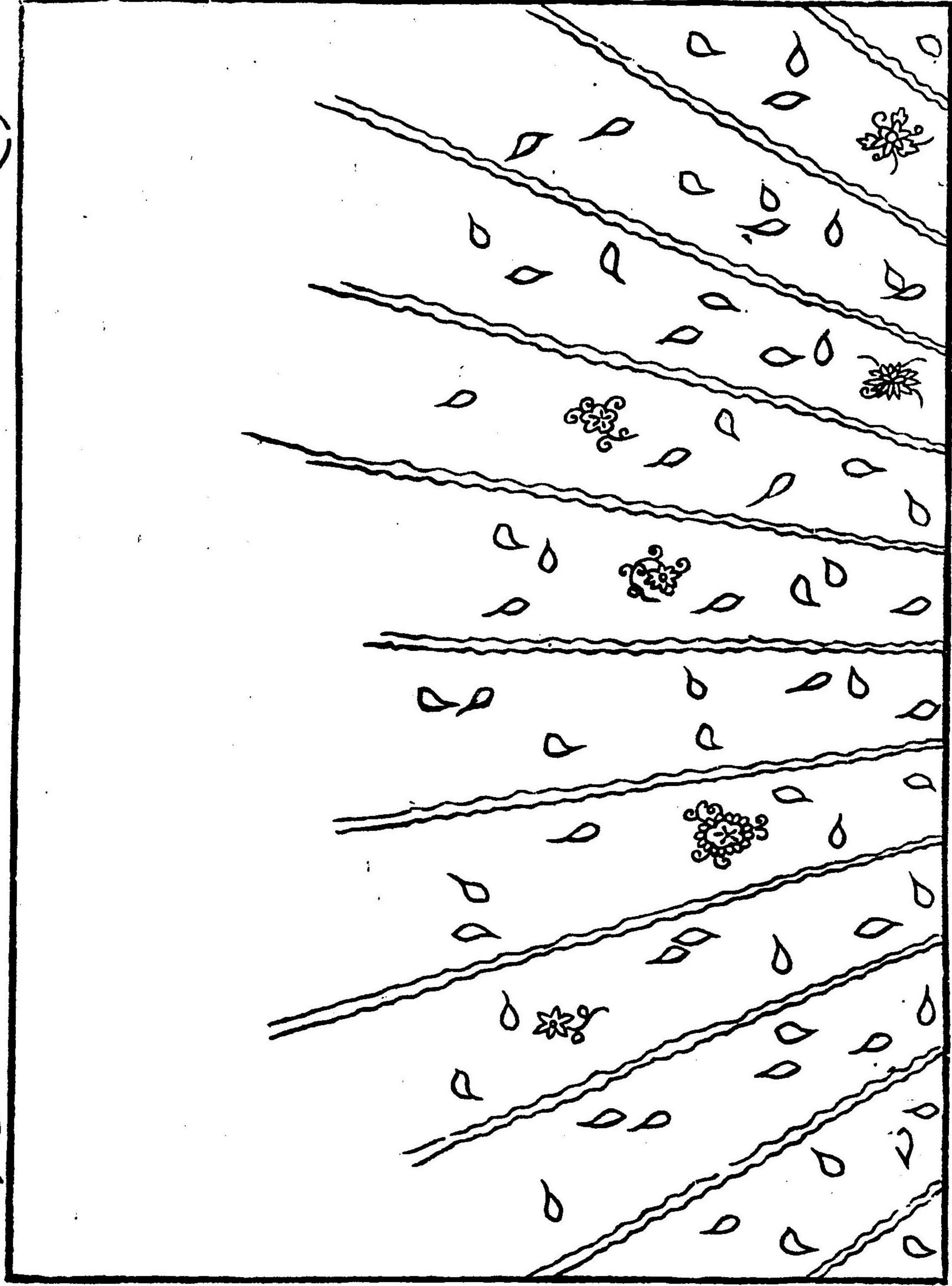




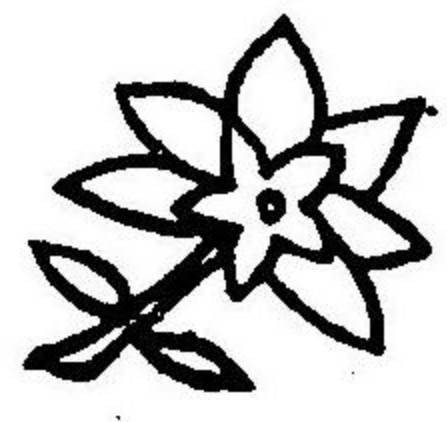


Artistic





Artistic



○念佛の行者の心は深奥具足なるが故に

文   

觀無量壽經よみて。衆生あもく彼國
 へまがんと願ひて三種の心をたしてすれは。往
 生す。上人の心をたして。至誠の心。深い
 三よの廻向發願の心。念を具す。ものは。
 かあ。深う。其國よまがて。  

同經の疏よみて。經よみて。行者至誠の心

真なり。誠とい實れ。一切衆生の身口意業より。
修する所の解行のたのびすべし。おのれも真實心
中よりやすべし。後あること欲と外より賢
善精進の相を現して。内は虚假をとりて事
成えしむ。貪嗔邪偽詐百端よりして。悪性や
免がしく。事地蝎よりならん。三業と起し
こい。とも名はもて。雜毒の善とけ。もて虚假
れ行のたのび。真實の業とけ。けけけ。けけけ。

のどきまの安心起行をたのび。そのまの身心
誠苦勵して。日夜十二時急。急と急より作し。
頭然汗すくぬ。くたも。すべて雜毒れ善
とあひく。此雜毒れ行を廻して。おれ佛の浄土の
までん。しをぬ。いん。おん。おん。おん。おん。おん。
不可なり。たのび。もて。おれ。おん。おん。おん。おん。
弥陀佛の因中より。菩薩行は行。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。
時乃至一念。刹那。三業は修する。ところ。ま。

此真實心中有りたるをばよき施為趣求
したまふ所なり。真實なる有りて
たも。又真實の二種あり。一自利真實。二
利他真實なり。自利真實といふは。二種あり。一
自他真實心中。自他乃諸惡をよみ穢
國等戒制捨して。行住坐卧に一切の菩薩の
諸惡を制捨し給ふ。おのれをも我をよみ
おとせしむるべし。此の二種の真實心

中に自他九聖等も。善と勤修し。真實心中
の口業有り。此阿弥陀佛をよみ依正二報を
讚歎し。又真實心中の口業有り。三界六道等
の自他乃依正二報。苦惡の事を毀歎し。はる
一切衆生に。二業あり。一所の善法讚歎と。二
善業有り。あつらひをば教ひしと遠くけ。
よき隨喜と。又真實心中の身業。小合掌
礼敬して。四事等修して。此阿弥陀佛をよみ

後もて衆生と攝受志願す。しるひなくうらおも
ひあぐかの願力に乗じて。さるる往生を得。又
改定して。うつく信。釋迦佛。この觀經に。二福
九品定散。二善を説く。の佛に。依正二報と證讚
して。心とて欣慕す。免れよと。又改
定して。うつく信。祇園經に。中より。十方恒沙
乃諸佛。一切の九品改定して。生じること
得と。證勸し。免れよと。又深信を。あま

孫かいく。一切乃行者等。一心よ。た。佛語を信
して。身命改へ。も。改定して。依行せよ。
佛の捨し。め。免れよ。の。改定して。佛の
行せし。め。た。免れよ。の。改定して。佛の
去し。免れよ。の。改定して。佛の
教し。隨順し。佛意し。隨順す。な。つ。是。と
佛願し。隨順す。名。つ。り。これ。改定して。佛弟子と
な。つ。り。又。一切の行者。を。改定して。佛の。よ。ら。て。

ぬく信じて行ずるものもあらす衆生と
阿耨多羅三藐三菩提のゆへに佛に此大悲心
満ちた人となりて入る。實語に終るゆへに
佛法のそとへて還る者行はる。満ちたその字
地よありてたると正と習ひの二は隣りておのぞ
く。果も願ひもはるゆへに終るゆへに九聖に
たると諸佛の教意を測量するものもあらす
了るものもあらす。平章するものもあらす。

かゆはるものもあらす佛の證を請て定とすべま
かり。まゝ佛意なりこれにすまはる。平可して
如是くとの終るものもあらす佛意なり。かゆはるもの
すものもあらす。汝等。まゝに。この義不如是也
のたより。印なきは。家のもの。すなはち。無記無利無
益の語。まゝに。佛の印可。終るものもあらす
その佛に正教なり。随順と。まゝに。佛のありて
言説するものもあらす。正教。正義。正行。正解。正業。正

智たり。若くは多き。いふ。す。由て菩薩人天等
なり。その是非をばらばめ。然り。佛は
所説す。れ。ち。これ。教たり。菩薩等の説と。
し。く。を。不。了。教。と。お。び。く。る。あり。き。く。べ。し。は。教。よ。
今。時。の。い。ひ。く。す。じ。切。有。縁。の。往。生。人。等。も。
ら。く。佛。語。を。信。じ。て。專。注。奉。行。と。す。べ。し。菩薩
等の。不。相。應。れ。教。に。信。用。し。て。も。く。疑。碍。は。
な。り。抱。惑。自。迷。し。て。往。生。れ。大。益。を。廢。失。し。と。す。べ

卷三

し。又。深。心。深。信。と。は。受。受。し。て。自。心。を。建。立
し。て。教。よ。順。じ。て。修。行。し。て。た。く。疑。錯。を。除
て。切。れ。別。解。別。行。異。学。異。見。異。執。の。を。め。め。に
退。失。し。傾。動。き。れ。づ。我。問。て。い。も。く。九。丈。智。淺
く。惑。障。し。と。ら。ら。し。き。解。行。不。同。の。人。お
ほ。く。經。論。を。引。來。て。あ。ひ。妨。難。し。證。し。て。
切。罪。障。れ。九。丈。往。生。を。得。と。い。ふ。逢。い。ん。が
の。乃。難。を。對。治。し。て。信。心。を。成。就。し。受。受。し。

ふらふら我らよしに。これ佛教よらりて。決定
して奉行よらる。よらる。汝等。百千萬億ありて。
善く信じて。我ら往生の信心を增長し
成就せんと。又行者よらる。に向て。たいてい。仁者
よらる。け。我らよ。汝ら。ため。に。に。決定の信
相よらる。た。地前。菩薩。羅漢。碎支等。
若し。一。多。乃至。十方。遍満。して。これ。經
論。引。て。證。して。生。て。好。き。我ら。い

い。念。れ。疑。心。は。お。こ。ろ。唯。我。清。淨。の。信。心
を。増。長。し。成。就。せ。ん。何。は。さ。く。た。ゆ。へ。佛。語
ハ。定。成。就。の。了。義。う。して。一。切。乃。た。め。破
壞。せ。し。ま。は。ら。る。に。よ。ら。る。又。行。者。よ。ら。ま
を。た。し。初。地。已。上。十。地。已。來。若。し。一。多。
乃至。十。方。り。遍。満。して。異。口。同。音。り。これ
釋。迦。佛。の。殊。勝。を。指。讚。し。三。界。六。道。返。數。皆。
衆。生。を。勸。励。して。專。心。に。念。佛。し。を。よ。び。餘

善哉修すもびつて一身はさるる所の必定
して。此國よまよふるに。あつたは。虚妄
なり。依信とて。彼とて。人ふ我。此等の野
説を聞とり。念の疑心をまがゆ。たゞ
我安んじよ。信心を增長し。成就せん。たゞ
彼とて。いへよ。まよふら。佛語。真實安んじよ。
義あり。いよ。いへよ。佛。いよ。實知實解。實
見實證。よ。いへ。これ疑惑の申の語あり。あ

らるが。いへよ。又一切菩薩の異見異解のいへ。に
破壊せよ。いへ。いへ。實り。これ菩薩なり。いへ。
すべて佛敎よ。まよふ。又。此れ事。まよ。置行者
當よ。まよ。いへ。た。此れ化佛報佛。若。いへ。いへ。いへ。
乃至十方。遍満して。まよ。いへ。いへ。いへ。いへ。
まよ。いへ。いへ。いへ。いへ。いへ。いへ。いへ。いへ。
いへ。いへ。いへ。いへ。いへ。いへ。いへ。いへ。いへ。
九丈。勸發。いへ。専心。念佛。いへ。いへ。いへ。いへ。いへ。

善を修して。廻願すべし。のれ浄土よ生ずること
得らば。まじく。塵妄あり。はじめて。これ奉
たす。といふ人。我。これ。諸佛。乃。所説。法
聞。といふも。畢竟して。念疑退の心を。おこ
て。これ佛國。より。生ずること。得らば。人のこれ
と。我。と。の。との。ゆへ。佛。一切佛。あり。あ
ゆる。知見。解行。證悟。果位。大悲。等。同。より。して
す。う。と。差別。なり。これ。ゆへ。一佛。れ。制。と。す。

卷三

三

こ。後。い。も。れ。ら。一切佛。あり。制。し。給。ふ。前
佛。れ。殺生。十惡。等。乃。罪。は。制。斷。し。給。ふ。り。
畢竟。し。と。犯。さ。ば。行。せ。ざる。後。と。れ。ら。十善。十
行。隨。順。六度。れ。義。と。名。け。く。法。が。と。れ。ら。後
佛。出世。と。給。ふ。こと。あり。り。豈。前。れ。十善。を
あ。た。め。く。十惡。を。行。せ。し。べ。き。ん。や。此。道。理
返。て。推。驗。す。と。明。ら。る。よ。知。ぬ。諸佛。乃。言
行。の。い。違。失。せ。ざ。ら。ん。と。を。た。と。ひ。釋。迦。一切。の。凡

夫汝指勸しんく。此一しん身汝しんはくくとははく。
專念專修せんぜんせんしゆとはれん。命汝めいすく已い後ごはくん。
ては國こくよますまのはくくとははくく。十方じふぱう乃なり諸しよ
佛ぶつもあらくとははくくとははくく。讚さんとははくく。
すめおたりと證しやうとははくく。佛ぶつ乃なり化けらるも
同どう躰たいのたいはくく。佛ぶつ乃なり化けらるも
一いつ佛ぶつ乃なり化けらるも。一いつ佛ぶつ乃なり化けらるも。
一いつ佛ぶつ乃なり化けらるも。

説しやくくく釋迦しやくた極樂ごくらくとははくく。種しゆくく乃なり莊嚴じやうげんとははくく。
又また一切いつせつのたいはくく。一いつ心しんにもちらるる。稱じゆん隨じゆん乃なり名号なごう
をを念ねんとははくく。一いつ心しんにもちらるる。稱じゆん隨じゆん乃なり名号なごう
にに下げのたいはくく。十方じふぱうにもちらるる。恒じやう河が沙さ等とう乃なり諸しよ
佛ぶつありて。おたりと釋迦しやくたとははくく。五ご濁じやく惡あく時じ惡あく世せ界かい
惡あく衆しゆ生じやう惡あく見けん惡あく煩ぼん惱なう惡あく邪じや無む信しんのたいはくく。時じ小せう
おたりと稱隨じゆんじゆん乃なり名号なごうをを指し讚さんとははくく。衆しゆ生じやう稱じゆん念ねんとは
おたりと稱隨じゆんじゆん乃なり名号なごうをを得とくとははくく。勸くわん勵れいとははくく。

讚えん一諸しよぶくくんとんとんとんの證しやうなり。又十方乃
佛等ぶつらう。衆生しゆじやうは釋迦しやくぢや一佛の所説しよせつを信しんぜばんと
成なるりてはもののの同どう時じはもののく
舌相しやうをいてあまひく二千せん世界せかいにたかし
て誠實まことに言はれたはらふ汝等なんぢら衆生しゆじやうももののに
これ釋迦しやくぢや乃なり所説しよせつ所讚しよさん所證しよじやうは信しんずゆ一の切せつの
九く支し罪福ざいふくの多おほ少すく時節じせつの久近くじんをもののたらばよく
と百年ひゃくねんをはくく一の下しも月つき七なな日にちよくももののとらばよく
と百年ひゃくねんをはくく一の下しも月つき七なな日にちよくももののとらばよく

三

よもつく。弥陀みだ乃なり名号なごうは念ねんとらればけらばよくえて
往むか生なまを得え。乃なりはくけらばよくとらばよくとらばよくとらばよくとらばよく
一佛の所説しよせつはもののとらばよく一切佛いっせつぶつにたかしく其事こと
は証證しやうじやう誠まことにはらふこれを人よ就て信をこのと
あらむべ決けつり行よりまさく信はらむといふとらばよく
行ぎやうよ二種しゆあり一よの正行しやうぎやう二よの雜行ざぎやうなり。まへの三行ぎやう
の中に一よの正行しやうぎやう二よの雜行ざぎやうなり。まへの三行ぎやう
とらばよく過あやましるとび今生いま乃なり身みん口くち意い業ごうより修むとら

行おたりくばる。邪雜れ人等ありてさうり
てあり感亂し。ありひと種々の疑難をとり
く。往生後得ずといひあり。いんごん汝等衆
生。曠劫よりこのころ。をよひ今生乃身口意
業。一切九聖れ身上よれいよく具入り十惡五
逆四重法。謗闡提。破戒。破見等。の罪をばら
ていさへ除き盡し。いさへいさへ。いさへいさへ
られ罪い。三界の惡道。繋屬といんごん。一生の

修福念佛なりて。すあひらの無漏無生の國
よへく。いさへ不退の位を證悟す。こと得ん
や。答ていさへ。諸佛の教行。す塵沙。越稟
識の機縁。隨情し。ありあはれ。たへん。世間の人
れ眼に見らるべく信ず。むさへいさへ。明く闇
をやらち。室より有をふく。と地より載養
ひ水より生潤し。火より液壞らる。いさへいさへ
かくのよと。現業のよ。いさへいさへ。待射の法を

まじし法を修めしむるを得。よき行を修めしむる
はらむ。この有り象の法よきを得。かく
切勞を修めしむるを得。又一切の往生
世人等。よき行を修めしむる。行者のため。これ
警諭。法を修めしむる。信をよき守護して。かく外邪
異見を難はぬ。何者。是なり。たごひん
あまて。西よきして。百千の里を。いんを。かく
かよて。まじし。熱し。中路。何れ。いんを。かく

に。我れ。河南。あり。いん。かく。水。の。は。た。り。何
と。の。く。廣。の。百。步。の。の。く。地。の。く。南
北。の。り。の。水。火。れ。中。間。あり。いん。の。白。道。あり
ひろ。の。四。五。步。あり。いん。の。道。あり。いん。の。西
の。岸。あり。いん。の。長。の。首。あり。いん。の。水。乃。波
浪。あり。いん。の。道。あり。いん。の。火。乃。融。あり
まじし。道。あり。いん。の。水。乃。波。あり。いん。の。波。あり
休。息。あり。いん。の。人。あり。いん。の。空。あり。いん。の。地。あり

きりてくもよばし人物のたかき群賊悪獸
ありて此人の單獨あるは河南北邊界を隔る中間の
とて西よびくは忽然として此大河を隔るは
く念言すは河南北邊界を隔る中間の
の自道後よびて我狭くは岸あり
と事らくは河くは今
日より先んば我を隔るは

海んとくはとて群賊悪獸漸くは
はくは南北の間に我を隔るは
歎毒蟲のやうに我を隔るは
ひて道ただくは我を隔るは
はくは水々の河よ陸せんは
の惶怖に思ひ念ふは
はくは我を隔るは
た死たんとて種とて死後

はなはたしむる我ごり此道なるをいふなり
しるすもくもくすに世にあらはれぬものなり
へんて命をたすの時よ東岸よまらばはるかに
ぬきこむ聲をいへん。二者もや交りて此道を
尋ねていひかたむく死の難をいへん。いふ
すれども死たんとす。西岸のいふもあつて
ていふもいふにいふ命をいへん。いふもいふに
我よく汝をいふもいふからいふて水火の難より
随

らんこも畏れぬものなり。いふもいふに
いふもいふにいふ命をいへん。いふもいふに
正當にいふにいふ。いふもいふにいふ。直り
まはる。疑法退の公はまらばはるかにいふ。い
ふかす。東岸の群賊等よいふにいふに仁者
の道はいふに道はいふ。過はいふに得。い
ふ。いふにいふにいふ。いふもいふにいふ。い
ふ。いふにいふにいふ。いふもいふにいふ。い

いづれもいづれもいづれもいづれも一貫すいづれも道な念
しつていづれも須臾もいづれも西岸よりいづれも
うづれも海への難いづれも善友のいづれも慶樂
なむ事なり。是のいづれもいづれも決まなむと合せば東
岸といふ。即此娑婆の火宅といふ。西岸といふ。
すめり極樂の寶國といふ。群賊悪獸の
いづれもいづれもいづれも即衆生の六根六識六塵五陰
四天にたづねいづれもいづれも空過の禪といふ。即つていづれも悪

友といふ。いづれもいづれも真の善知識といふ。いづれもいづれも
水火の二河といふ。いづれもいづれも衆生の貪愛の火のいづれも
瞋憎の火のいづれもいづれも中間の白道四五といふ
いづれもいづれも衆生の貪瞋煩惱の中にいづれも清浄なる顔
面といふ。いづれもいづれもいづれもいづれもいづれも貪瞋はよ
いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも水波の
いづれもいづれも善の微かなるいづれもいづれもいづれも白道をいづれも
いづれもいづれも水波は縁の道といふ。いづれもいづれも即衆生のいづれも

よきことへ善いこと染汚するよまたとぬ又火焔のよ
道や善いことありも願無のよよく切徳の法財を
おこしおこすよよくの上よおこす直よ西よじよと
くよよよよよよよよよよよよよよ直よ西よ
にじよよよよ東岸にの聲ありてすよのやよ
よよよ道よよよよ直よ西よよよよよよ
よよよ釋迦よよよ滅よ終て後よ今よ今よ
よよよよよよよ教法のたばぬるよよよよ

すあち是はたごよよ聲ありよよよ
ま一分二方よよよ群賊等よよよよよよよ
あち別解別行悪見人等よよよに見解をよよ
よよよよよよよ感亂よよよよよよ罪よ
はちち退失よよよ西岸よよよよよ
よよよよよよよ赤院の願意よたよよ須臾よ
西岸にいよよ善友ありよよよよよよよ
よよよよよよよ生死よよよよよ曠劫あり

往生礼讚云問ていかにいかにいかにいかにして往生
せんかんとていかにいかにいかにいかにいかにいかに安
心し起行し作業して定てかの國あり後
まを得人や答ていかにいかにいかにいかにいかに
まをんといかにいかに觀經よ説がいかにいかにいかに
具てもいかにいかに往生を得何業よといかにいかに
しよに至誠といかにいかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
業よかの佛を讚歎稱揚し意業よかの

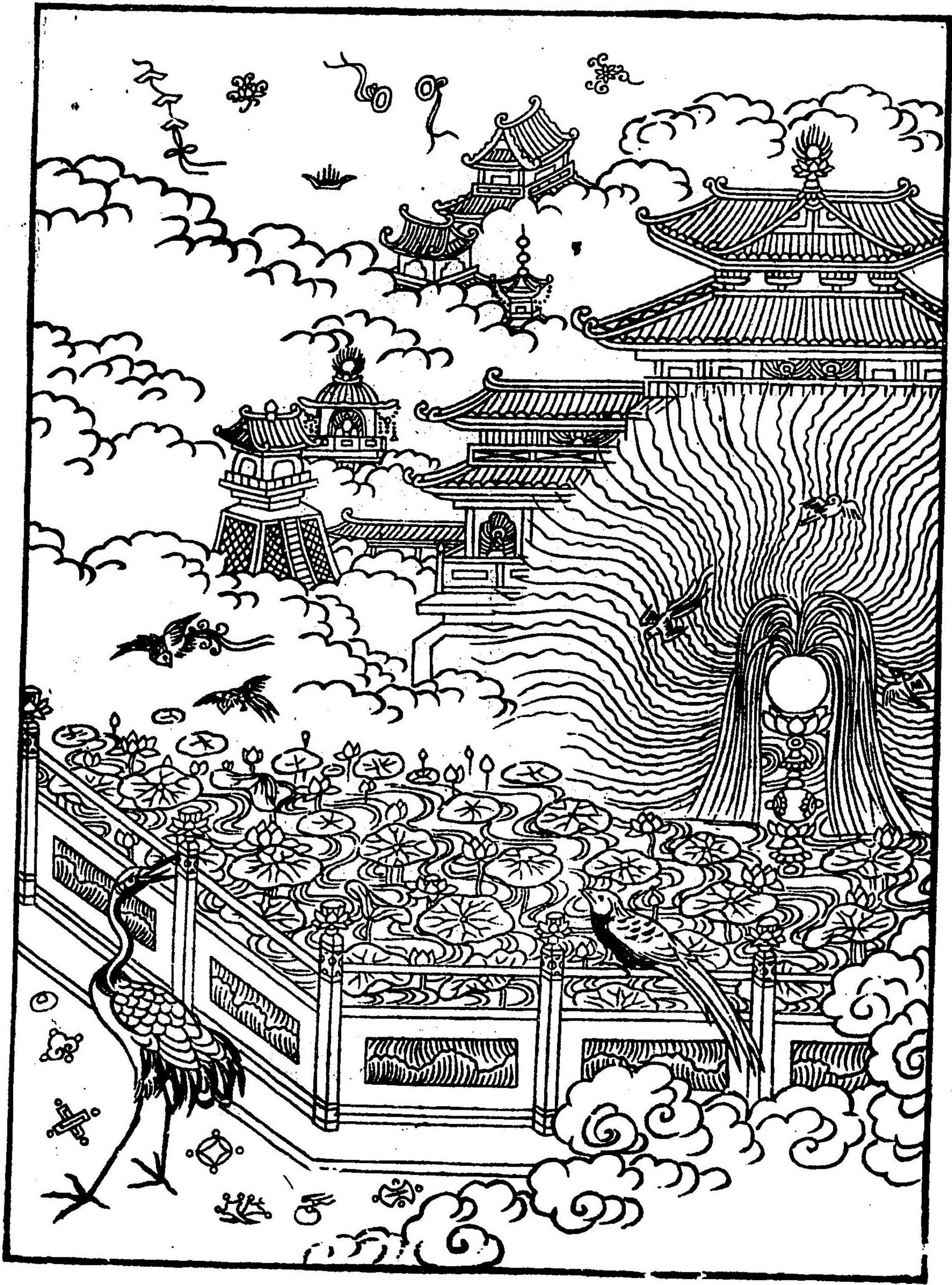
佛は專念觀察といかにいかにいかにいかにいかにいかに
いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
名づくといかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
かり自身といかにいかに煩悩を具足せば家九丈善
根薄少といかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
と信知しいかにいかに蘇陀乃本弘誓願といかにいかに
号は稱すといかにいかに十聲一聲等といかにいかに
いかにいかにいかにいかに往生を得也信知して

極樂よまがらんといはくばんていふもへん川に
具足するもつその中に至誠のぶに眞實の
なりぞれ相かの文のぞくたゞ外には
賢善精進れ相と現れ内は虚假をいづくとい
外は内よ對あるべしはならんく外相也
内は外とのいふた善から悪なるは是外と
智より内は愚から賢と愚と對するは言
ふべしへ外は善れ賢と一は内は不善

愚から善と惡と對あるも善と不善といふ
く外は内よ善と不善と内は外なりと惡なり
精進の懈怠より對するは内は善なりとく
外は精進の相と善なりは内は不善なりとら懈怠
れを善なりとく不善なりと外は翻して内に
善は外よ出要といふは内は内懷虚假
善は内よ内は外と對するは内は善なりとく
内は外相といふは内は外は善なりとく

あま内虚外實たり。虚の實より對すれば
あまなかり。いづく内虚外實の者れば。假
真より對すれば。辨たり。いづく内假外真
なり。いづく内假翻して外に播く
出要のいづく深き。いづく深き
信するのいづく。當にいづく。生死の家
疑後もて野止。涅槃の城の信後
いづく能入のいづく。いづくの信を

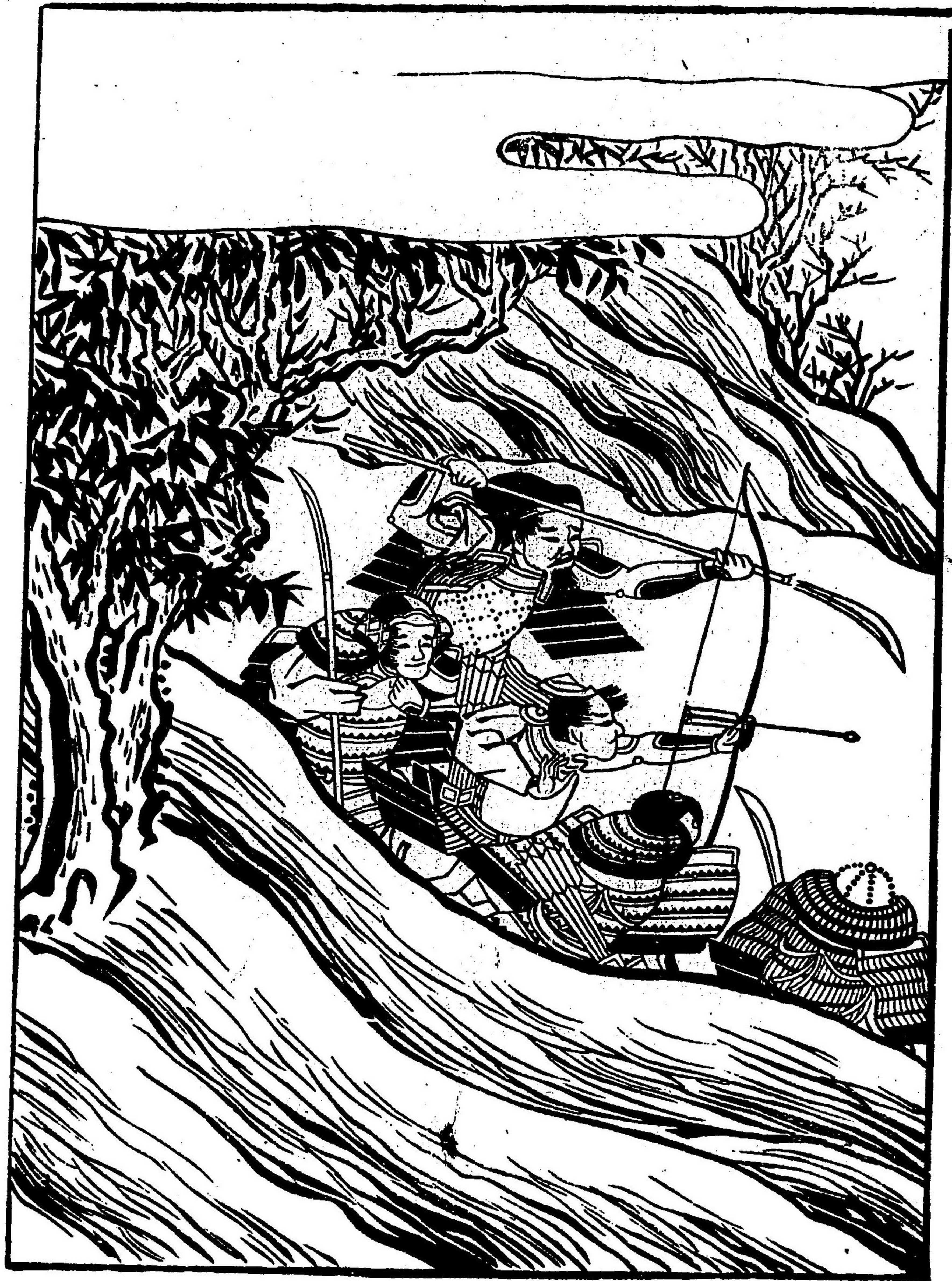
建ちしして。九品は往生後決定するを
なり。又此中に一切の別解別行異学異見等
とらふ。まき聖道門の解行学見を指し
その餘はすなはち是浄土門の意より支
あちてえいべ。明のいづく。善導の
意よりこの二門を出づ。いづく。廻向發
願心は義別釋をまつ。いづく。修行志也
いづく。此三心を惣してあまなかり。諸の



行法よ通し別して二重に改めんとて往生
 せ行よあもいま通ちを奉て別後攝收し
 ろよならあもいり行者よく用心して
 敢て忽緒りすことたりと云。



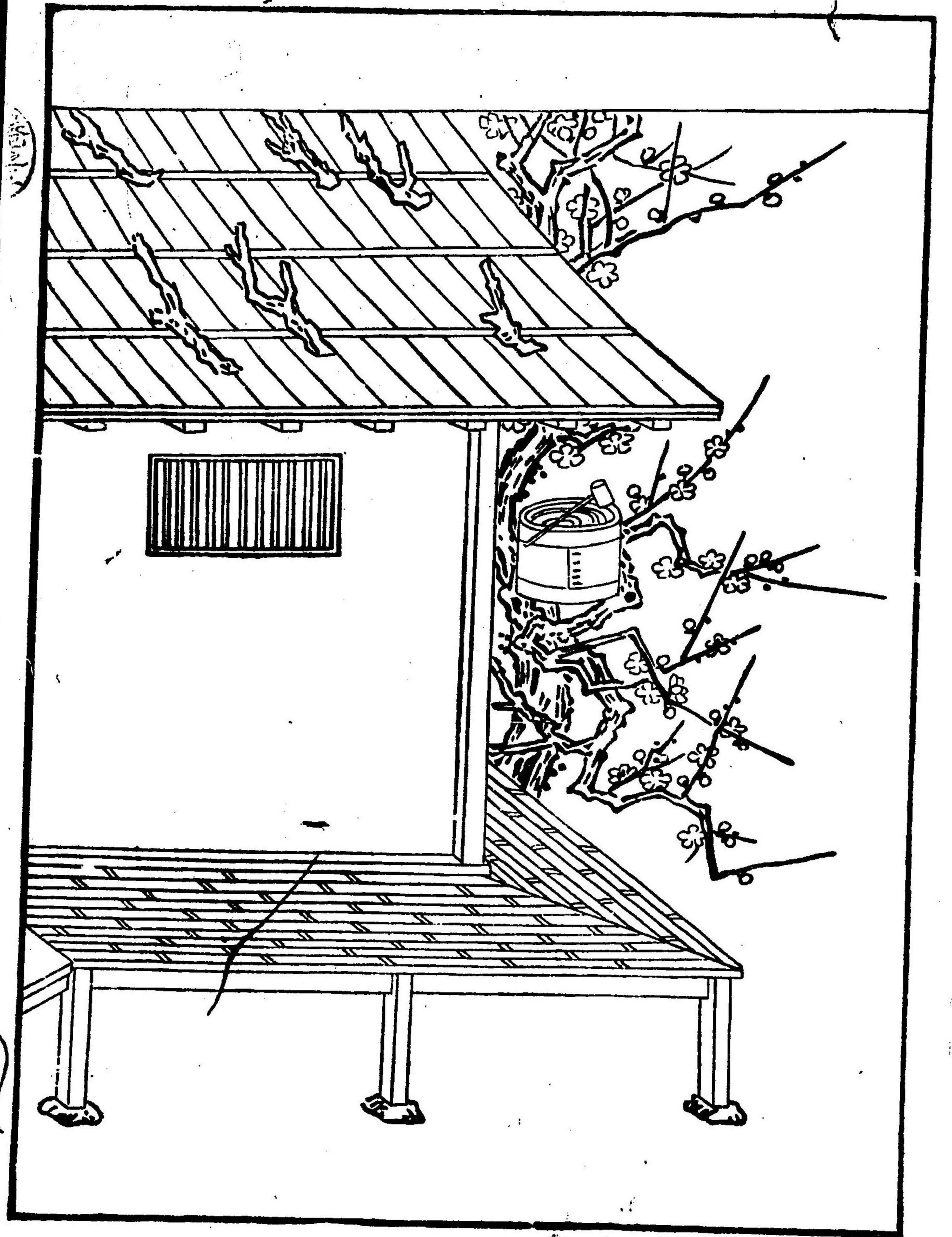




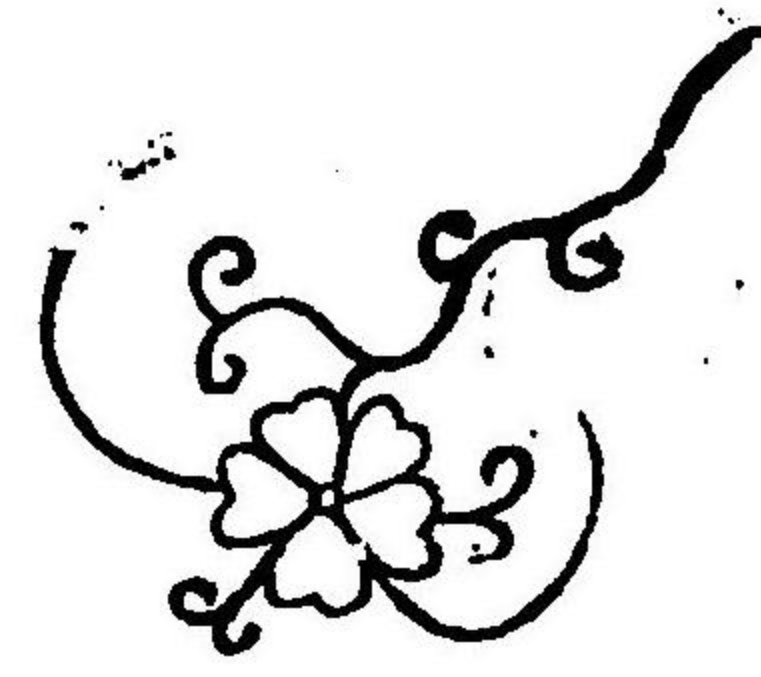
三ノ目



四ノ目



卷三



卷三

